

今週のメニュー

■トピックス

- ◇「塩ビの良さの再認識が進み、塩ビ需要回復へ」
—森会長 VEC総会後の懇親会にて挨拶—

■随想

- ◇日本のお祭りシリーズ（その3）
—館林の鯉のぼりと塚越の花まつり—

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

- ◇「塩ビの良さの再認識が進み、塩ビ需要回復へ」
—森会長 VEC総会後の懇親会にて挨拶—

5月21日に塩ビ工業・環境協会 第16回総会・懇親会を開催しました。懇親会には官庁、報道関係、関係業界などの方々にご参加いただきました。挨拶で、森会長は塩ビの良さの再認識が進み、塩ビの需要は今後増加していくとの考えを示しました。

続いて、来賓の経済産業省製造産業局 渡邊審議官の祝辞、山本副会長の乾杯の後、和やかに歓談がなされ、盛況に終わりました。

以下に、森会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

本日は皆様ご多用中のところ、多数ご出席を賜り、誠に有難うございます。平素より塩ビ工業・環境協会の活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

経済産業省 製造産業局の渡邊審議官様におかれましては、ご多忙の中、ご臨席賜り誠にありがとうございます。また、関係官庁の皆様、塩ビ製品業界や商社の皆様、マスコミの皆様、さらには日頃より塩ビ産業に様々なご支援をお寄せくださっている皆様にご出席賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

さて、当協会の会長という大任を拝命し早くも一年になりましたが、皆様の温かいご支援とご協力によりまして、幅広い活動を行うことができました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

この1年間を振り返りますと、わが国の産業はいわゆる六重苦に喘いでおりましたが、年明けからの円安と株価の上昇により、漸く明るい兆しが見えてまいりました。消費税率の引き上げや中



森会長



渡邊審議官



山本副会長

国の成長鈍化など不安要因もありますが、国内では自動車、住宅、高額商品などに需要の回復が見られています。

2012年度の塩ビ樹脂の生産は130万トン、国内出荷が103万トンでした。これに輸入を加えた国内需要は、過去3年間は105万トンで推移していました。震災からの復興が本格的に進むことにより、105万トンを底といたしまして塩ビの需要は回復していくものと見ております。

業界としては、塩ビ製品の優れた環境性能と機能をご理解いただくために、国内外の塩ビ関連団体と連携しながら、幅広い活動を進めてまいりました。

例えば、塩ビへの正しいご理解をしていただくことにより、塩ビ製電線の使用の制限につながっていた調達基準を宮城県と和歌山県が取り下げ、残るは京都府のみとなりました。また、自動車で塩ビを再び使用する検討の動きが出るなどの進展が見られました。

更に、第2回目となりますPVC Design Awardは30代以下の若手の応募が多数あり、今回初めて大賞作品が出るなど質が向上してきています。このほど作品の募集を開始した第3回目は大賞賞金額も増やしており、多くの良い作品が出揃い、商品化されることを期待しています。この取り組みは、デザイナーと塩ビ業界との協力、そして塩ビの原料から最終製品にいたる業界全体の連携を深めることへの良い刺激になっており、新たな塩ビ製品を生み出す力につなげて参ります。

リサイクルにつきましては、当協会が支援させていただきました2件の技術開発が完了いたしました。これまでに様々なリサイクル手法が提案され、実用化につながっている案件も出ています。業界としては一層のリサイクルに努めて参ります。

また、工場の環境と保安対策についての自主的な取組み、そして海外の塩ビ関連団体との情報の共有など、事故防止や規制対応の活動にも力を入れてまいりました。特に工場の安全につきましては、業界にとり最重点項目と考え、今後も力を入れてまいります。

樹脂窓は、エコポイント制度により消費者にその優れた環境性能が広く認知されるようになり、順調に普及が進んでおります。関係業界とともに、更に成果が上がるよう普及活動に取りくんでまいります。今年10月に施行されます建築物についての改正省エネ法では、断熱性能の高い製品の導入が求められています。断熱性能に優れた樹脂窓の普及につとめて参ります。

これまで申し上げましたように、関係各位のご努力によって、物性、加工性そして環境優位性も含めた塩ビの良さの再認識が進むことにより、塩ビの需要は再び増加していくことと考えます。

当協会の活動も、この動きを更に進めていきたいと考えております。改めまして、本日もご列席の経済産業省をはじめ関係行政府のご支援をお願いすると共に、塩ビ関連業界、塩ビ製品をご愛顧いただいておりますユーザー業界、マスコミ関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げる次第でございます。

最後に、本日もご列席の各社の事業の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健康、ご多幸を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◇日本のお祭りシリーズ（その3）
 ー館林の鯉のぼりと塚越の花まつりー

関東学院大学 織 朱實

今年のゴールデンウィークは、残念ながらお休みが分断されてしまいましたね。お天気は前半も後半も、良かったのですが、短い休みということで、近場にスポットが当たったようで、関東エリアの観光スポットはどこもなかなかの人混みだったようです。

5月といえば、「鯉のぼり」。最近は、町おこしのイベントとして各地で鯉のぼりスポットが作られています。群馬県館林は、その数の多さがギネス認定ということもあり特に有名。私も、近場ということで、この鶴生田川つるうだがわギネス認定「鯉のぼり」を見に行ってきました。こちらの鯉のぼりは、2005年5月に5283匹の掲揚数でギネス世界記録に認定されたとのこと。今でも世界一の鯉のぼりとして、川の上を気持ちよさそうに泳いでいます。ギネス認定ということですが、そもそも日本以外に鯉のぼりを揚げる国があるのでしょうか？日本だけだとすると、『日本一＝世界一』になりそうですね。



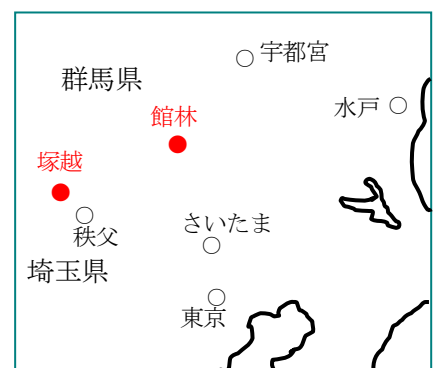
鶴生田川の上を泳ぐ5000匹のこいのぼり



鯉のぼり会場の近くには、有名な「つつじが岡公園」もあります。こちらは、江戸時代から樹齢何百年という古木のつつじも含め、盛りの時は丘全体燃えさかっているような美しさ。HPを見ていると素晴らしいのですが、今年はなんと花芽が全然つかず、ほとんど花の咲いていない状態でした。私もそうですが、観光バスのツアーのお客さんは随分がっかりなさっていたようです。天候ということならわかるのですが、公園

の一步外を出ると満開のつつじ！手入れの悪さ？あるいは古い樹木なので、もう寿命なのかもしれません。とはいえ、館林市にしてみれば大切な観光スポット、来年の花の状況はどうなのか、気になります。来年は、きちんと咲いてくれるといいですね。

さて、もう一つ訪問したのが私の今年の前半のビックイベント！ともいえる奥秩父の塚越「花祭り」。秩父の山間にあるこの地域では、行事がすべてひと月遅れ。4月の花祭りがひと月遅れで、毎年5月4日（昔は、5月8日）に開催されるそうです。NHKの『新日本紀行』にも紹介された「花まつり」は、埼玉県の無形文化財指定のお祭りで、朝7時から子供たちが1時間かけて急な山の上のお堂までお釈迦様を、花をまきながら運び、お堂におさめ、お水をかけてお誕生をお祝いするというほのぼのとしたお祭りです。





このお祭りの大きな特色は、参道にまく花やお釈迦様を納める花御堂の飾りつけの花や木の芽、すべて子供たちが近くの野山で集めてくるということでしょうか。写真で見てわかるように、参列のスタート地点にあたる熊野神社は前日から、びっくりするくらいの花！花！

これらの花を集めるのには、10日くらいかかるそうです（子どもが少なくなっているので、子ども達だけでは集められないので、大人もお手伝い）。

例年なら、この時期は桜やヤマモモが満開だそうですが、今年は桜が早くに終わり、そのかわりに山藤が満開。村の各戸にも、前日からたわわに下がる藤の花が飾り付けられ、華やかな雰囲気醸し出していました。集めるだけでなく、花を綺麗にまけるように大きさをそろえる作業も子どもが中心になって、前日から準備が大変そう。とはいえ、子どもにとっては準備も

遊びのようなもの。前日の夜は、男の子はお堂に泊まりこむという、子どもたちにとっての本当に一大イベントで、とても楽しそうです。

京都の地頭祭りも、子ども達が楽しむ、子どもの祭りですが、全国いろんなかたちで存在する子供祭り、子ども達にとっては忘れられない思い出ですよ。とはいえ、進行する過疎化。今年は、お祭りに参加できる村の子は7人。村から出て行った人たちの子供たちが入りようやく20名確保という状態。世話役さんも、「年々子供の数が減って言っているの、あと数年くらいしか続けられないのでは」と心配なさっていました。



さて、このお祭りはカメラ愛好者からも大変な人気なお祭りなのですが、朝7時から開催されるため前日から近くに泊まらないと間に合わないというのがちょっと大変。世話係のお兄さんいわく、「俺らのころは、5月8日で平日だったから、そのあと学校へ行ってたな」「もっと、遅く開催すれば観光客も来るからいいのに、という意見もあるけど、やはり朝もやのこの空気のなか花をまくのがいいんだよね」ということ。本当にそう思います。



お堂に到着。皆で一斉に花びらを空に向かってまき散らします。

うっすら青白い光の中、子ども達が花をまきながら登ってくるとだんだんお日様が上ってきて、最後にわーっと全員で花をお堂の広場に円になってまくというクライマックスのころは明るく！朝もやの中の行列は、新緑の緑とのコントラストも本当に綺麗です。過疎化が心配されている地域ですが、こんな素敵なお祭りがあるのですから、豊かな自然とともに村の活性化が図られ、なんとか継続して行ってもらいたいです。

今回は、工場見学とあわせて合わせてどこかで夏祭りの写真が撮れれば、と思っているのですがそううまくいきますか？ブログの方も見てくださいね。

⇒ [ブログはこちらから](#)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

庭のバラがようやく開花の最盛期を迎えました。近所では 1-2 週早く開花しており今年には遅れたようです。今冬、庭の改修をしたとき、表土の移動や木の移植を行ないました。注意して行ったつもりですが土の温度が下がり、植物にとっては一大事だったと思われる。ちょっとした環境の変化でも健康に影響が出るのは人間も同じで、住環境を良くすることの重要性を改めて感じています。(可)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp